



気づかないきずつけてしまう差別

【目的】

多数派、少数派がつくり出される過程で、気づかないうちに差別感情や排斥が起こりうることを体験し、差別を受けたと感じた人が受ける心の傷の深さを考える。

【所要時間の目安】

30分

【人数】

20人以上

【用意するもの】

3人を除いて、参加者全員分の色シール(4色)各1枚。4色のシールは各色ほぼ同数に。
3人には、色の異なるシール(3色)各1枚。3色はそれぞれ異なる色。



おすすめかた

1 シールを貼る

指導者は参加者に色シールを貼っていく。何色のシールが貼られたか本人には分からない場所に貼る。このとき、同じ色のグループがかたまらないように色を分散させる。

2 同じ色同士のグループをつくる

指導者は、「これから何も話してはいけません。また、自分のシールの色を見てもいけません。では同じ色同士のグループをつくってください」と指示する。

3 グループができる

やがて4つの大きなグループができ、一方3人だけは同じ色の人を探している状態になる。

4 学習の目的の説明

指導者は、今のゲームは差別について体験的に学ぶために行ったことを説明する。

5 ふりかえりの発表と話し合い

3人は、他の人がどんどんグループをつくっていく様子をどのように感じたか。

ゲームと知らされた後でも、3人にとってはどのようなしこりが残っただろうか。

多数派の人は、どんどんグループをつくっていくときどのように感じたか。

多数派の人は、3人が近づいてきたときどう思い、どのような行動をとったか。

このゲームや上記の発表から差別や仲間はずれについて考えたこと等。

『気づかないきずつけてしまう差別』は、その後に『人の『わ』』を同時に行うとよいでしょう

人の『わ』

【目的】

体を動かし楽しみながら人の輪をつくり、和の喜びを体験する。

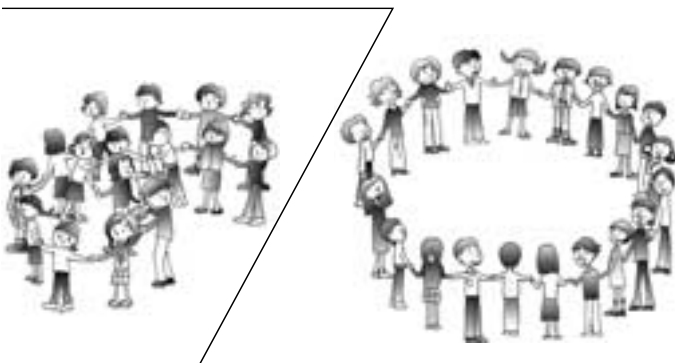
【所要時間の目安】

15分

【人数】

20人以上(人数が多いほど楽しい)

広い場所で行う



おすすめかた

1 複雑に手をつなぐ

参加者はなるべく密集し、両手を挙げ、自分の右手と他人の左手、自分の左手と別の人の右手をつなぐようにする。なるべく遠くの人と手をつなぎ、こんがらがった状態になればなるほどよい。

2 人の輪をつくる

指導者は、「手を離さずに、このこんがらがった状態から1つの大きな輪をつくってください。輪は全員が内側を向くようにしてください」と指示する。

3 人の輪ができる

きっと歓声があがる(はず)?

開発のための教育

— 地域市民を育てるための実践ガイドブック —

A4版/92ページ

1部100円

送料別途負担で
お分けしています。

